中澤俊介・印西市議会議長に聞く

今期の市議会を振り返って

長引くコロナ禍やロシアのウクライナ侵攻などの影響で物価が高騰し、市民生活や地域経済に多大な影響が出ている。印西市は独自の「物価高騰対策支援プロジェクト」として、市民１人当たり５千円の給付金を交付するなどの新規事業を立案し、今期の印西市議会で審議された。議事運営に当たった中澤俊介・印西市議会議長に多忙な中、会期の合間を縫って９月中旬頃に本紙の取材に応じていただいた。

―今期の議会での目玉議案とも言われる「市民１人当たり５千円の給付金」についていかがでしょうか？

中澤　物価高騰は世代を超えて生活に悪影響及ぼしており、特に電気・ガスなどのエネルギー価格の高騰は深刻です。現金給付で電気料金などの支払いの一助になります。市民の生活支援の為に、市議会もスピード感を持って対応したことで、市民１人当たり５千円の臨時特別給付金は、９月30日の最終日に可決されれば、年内までに支給の見込みです。

―10月から多くの食材が値上げされますが、民間の保育園や幼稚園に対する給食費の補助についてはいかがでしょうか？

中澤　私は小中学校の時、給食が一番の楽しみでした。物価高騰のしわ寄せを子どもたちが受けるような事はあってはなりません。子どもを守るのは大人に課せられた義務と言っていいでしょう。給食費の補助により保護者の負担も増えることなく、安心して保育園や幼稚園に子どもを送ることができるかと思います。

―市立の小中学校の給食用食材費を補正予算で増額補正したとの事ですが？

中澤　10月からの食材値上げに対し、栄養バランス、質と量を落とさずに給食を提供するために、市議会は機動的な対応を取りました。議会で審議した補正予算の中には、小中学校の給食用食材費を約２３２５万円増額した分も含まれます。これにより保護者の皆さんが月々払う給食費を値上げせずに済み、安定した給食を提供できます。食育の観点からすれば、子どもの成長にはバランスのとれた給食は不可欠です。

―路線バスやタクシー事業者に補助金を出す「路線バス運行対策事業」はいかがでしょうか？

中澤　燃料価格高騰の影響で、公共交通を担う路線バスやタクシー事業者には多大な影響が出ていると思います。特にタクシーに関しては、運転免許を返納した高齢者が病院の受診に利用していると聞きます。バス１台当たり20万円、タクシー１台当たり３万円の支給ですが、今後の状況の変化に応じて別の対策が必要になるかもしれません。

―国のほうでも「住民税非課税世帯に１世帯当たり５万円給付」を９月20日に閣議決定し、市議会最終日の30日に、給付に関する議案が提出されると聞きましたが、いかがでしょうか？

中澤　ひとり親世帯など本当に生活に困っている世帯にとっては、助けになると思います。岸田総理のご決断に感謝いたします。この取材を受けている時点では、どのような枠組みで給付されるかは不明ですが、国の枠組みが整い次第、今後は速やかな給付が行われるよう議会と行政が一丸となって協力し、誰もが住み良い印西市を作っていきたいと考えております。

―審議の結果については、次号でお知らせします。

多忙な中、本紙取材に応じた中澤俊介市議会議長

北限のコーヒーを楽しもう「トネビーンズ」

茨城県北相馬郡利根町の珈琲農園とむとむで、今年も、コーヒーの原料となるコーヒーチェリーが収穫された。コーヒーは通常、コーヒーベルトと呼ばれる、南北緯25度の熱帯の地域で栽培されるが、温室での徹底した管理のもとで、北限のコーヒー「トネビーンズ」が出来上がる。

この「トネビーンズ」は、10月１日の「コーヒーの日」に合わせて、COFFEE HOUSEとむとむ各店舗で提供予定だ。

毎年この日を待ち望んで、リピートをする人も多いという人気ぶりだ。さらに、「トネビーンズ」は、日本を代表する洋食器ブランド大倉陶園の優美なカップで提供されるので、いつもとは違った、特別なコーヒータイムを味わうことができるだろう。

「トネビーンズ」は、COFFEE HOUSEとむとむ利根店、つくば店、龍ケ崎店で10月１日から販売予定。（数量限定。なくなり次第販売終了）販売価格はデミタスカップ２杯だで１１００円（税込）。なお、注文すると、「トネビーンズ」の飲料証がもらえるそうだ。

あたたかいコーヒーが、ますます美味しくなるこの季節に、貴重な北限のコーヒーをゆったりとした空間で楽しんでみてはいかがだろうか。

問い合わせ・０２９７（68）８１５４／COFFEE HOUSEとむとむ利根店（茨城県北相馬郡利根町横須賀８０４の１）

会社経営者の皆さん！従業員に中和抗体検査を受けさせましょう！

新型コロナドライブスルー検査

新型コロナ感染防止対策は、社会経済活動との両立を図る「ウィズコロナ」の局面に入り、９月から新型コロナ感染者の自宅などでの療養期間の短縮や、自宅療養者の行動制限などを緩和するという。

社会経済活動との両立で重要になるのが、一人ひとりがワクチン接種による中和抗体が自分の体内にどれだけあり、予防接種の効果がどれだけあるかを把握することだ。それには中和抗体検査を受けることが欠かせない。

印西市岩戸の「モバイル移動型抗原抗体検査センター」は、中和抗体検査を受けられる数少ない施設の一つで、企業・団体への出張検査も行っている。

センターの担当者は「中和抗体検査は、人々を新型コロナから守るためにも『次の一手』を考えるためにも必要。会社経営者の方は、定期健康診断のように従業員に受けさせてほしい。そうすればコロナは収束に向かうかも」という。

中和抗体検査の手順

1. 専用の採血キットで検体採取

2. 検体を薬剤と混ぜ、測定用のプレートに滴下し約10～15分待機。

3. プレートを専用の機械に差し込んで測定。数値化された測定結果を印字。

同センターでは「一般的に体内の中和抗体が少ないと、重症化リスクが高くなる恐れがあると言われています。中和抗体の量が分かれば、追加のワクチン接種をいつするかなど『次の一手』を考える目安になります。従業員が次々に感染して『操業停止になるかも?』と不安に思う企業経営者は、中和抗体検査を従業員に受けさせることをお勧めします」と、従業員をコロナ感染から守り、社会経済活動との両立のためにも、中和抗体検査の定期的な検査を呼びかけている。

このほか、同センターでは、抗体検査、抗原検査も実施している。

中和抗体検査・５５００円
抗体検査・３３００円
抗原検査・３３００円

※企業・団体様への出張検査も行っております。ご希望の方は陰性証明書も発行できます。

モバイル移動型抗原抗体検査センター
印西市岩戸３６２９の１
電話０４７６（85）５５２６
https://www.a-analyzer.jp/
「抗原検査 印西市」でGoogleマップを検索。

★本紙持参で中和抗体検査を受けた方に、「ちばエコ農産物」の新米１kgをプレゼント。

このマークが目印！
ちばエコ農産物 認証 千葉県
「ちばエコ農産物」認証マーク